



John M'Leod
Voyage of His Majesty's ship Alceste,
along the coast of Corea, to the island of Lewchew;
with an account of her subsequent shipwreck
London, 1818
ジョン・マクロード 『アルセスト号朝鮮・琉球航海記』

1816年、イギリス政府は対清貿易の改善を図るため、アマースト卿 (William Pitt Amherst, 1773-1857) を全権大使とする使節団を派遣した。2隻の軍艦、アルセスト号とライラ号が使節団の護送にあたり、本書の著者、外科医のジョン・マクロード (John M'Leod, 1777?-1820) はアルセスト号に乗船していた。

使節団が清国との交渉を終えて帰国の途につくまでの間、アルセスト号とライラ号は朝鮮、琉球の調査のため航海を続けた。琉球には艦船の修理と水・食料の補給を理由に寄港、一行は40日余り滞在した。

本書はイギリス出航から帰国までの約1年半の航海記録。清国との交渉の失敗、アルセスト号の座礁など困難も多い航海だったが、琉球では文化や言語の違いを超えた交流が実現し、琉球の人々の礼節をわきまえた様や、心温かい接遇が、驚きと賛辞をもって繰り返し記されている。

1817年の初版以降版を重ね、また、オランダ語やフランス語にも翻訳された本書は、東洋の友好的な島国、琉球を広く西欧の人々に紹介した。巻末には、乗組員フィッシャー (Fisher) の収集による琉球語彙集や、ジラード (Gillard) による琉球への惜別の詩などを収める。展示資料は1818年にロンドンで出版された第2版。